

The 25th Japan Society of Internship and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 第25回大会

2024年9月14日・9月15日

共創による

新たなインターンシップの展望

ご挨拶

日本インターンシップ学会第 25 回大会（会期：2024 年 9 月 14 日（土）・15 日（日）、開催校：愛知東邦大学）のテーマは、「共創による新たなインターンシップの展望」です。前大会での「原点回帰。今改めてインターンシップを考える。」を基盤にしながら、新たな「共創」に向けた議論を期待するものです。若者と企業（社会）が協働することになるインターンシップにおいて、異なるアクターによる「Win-Win の関係」、一過性の取り組みではない「持続発展する共創の関係性」の構築に向けて何が必要なのかを考えたいと思います。

基調講演では、現在の労働市場・若者のキャリアなどの視点から、昨今の職場や若者の考え、今・これから求められるインターンシップについて話題を提供いただきます。若者や社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化を遂げています。情報技術革新に伴う働き方の変化、働く価値観に対応し、企業や大学はどのように変化・進化を遂げるべきなのでしょう。 「Z 世代」と呼ばれる若者は、今、何を求めて何を課題として認識しているのでしょうか。

シンポジウムでは、「東海地域」を中心に、多様なアクターと連携した新たな取り組みの実践者らの事例紹介と、その事例がどのように生まれたのかを議論します。多様なアクターが、単に一緒に実施するだけのコラボレーションを超えて、お互いにメリットを享受するにはどうすればよいのでしょうか。持続的な発展を遂げる「共創」が成立するための連携のあり方や要素・諸条件、「共創」の実現に向けた障壁について議論します。

これらに先立つ開催校イベント企画では、学生にも登壇してもらい、事例紹介をします。

東日本支部の担当となる第 25 回大会は、昨年に続く完全対面にて 2 日間で開催することになりました。会員の皆様にとっても「共創」の場になるよう、大会実行委員会一同、精一杯準備を進めております。準備や当日の運営に際して、何とぞご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

日本インターンシップ学会第 25 回大会

大会実行委員長 手嶋 慎介

大会実行委員会 一同

参加者へのお願い

■自然災害等の影響による大会開催の判断について

各開催日前日の 20 時に判断し、大会ホームページで告知すると共に、参加申し込みをされた方へ、メール及び Peatix 経由でお知らせいたします。詳細の対応に関する方針については、後日大会ホームページに掲載します。

■キャンパスの禁煙について

喫煙所は C 棟屋上のみとなっております。キャンパス内その他は全て禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。

■Wi-Fi の提供について

Eduroam 以外の学内 Wi-Fi の利用はできませんので、必要な方は各自ご用意をお願いします。
※ eduroam (educational roaming infrastructure : エデュローム) は、大学等高等教育機関の間でキャンパス無線 LAN の相互利用を実現するローミングサービスです。

■開催当日の昼食について

9 月 14 日につきましては、事前申込された方に弁当を配布いたします。S 棟 1 階にてお受け取りください。

なお、愛知東邦大学のキャンパス内にある食堂は、両日とも営業を行っておりません。徒歩 5 分圏内に、コンビニ等がありますので、そこで購入されるか、ご持参くださいますようお願いいたします。

■新型コロナウイルス感染対策についてのお願い

大会実行委員会としては、特別な対策や対応を行いませんが、ご参加される皆様におかれましては自己管理と共に発熱などの症状が出た場合には、参加を自粛する等ご留意をお願いします。

開催校へのアクセス・キャンパスマップ

■会場

愛知東邦大学キャンパス L棟4階イベントホール／A棟1・2階各教室

〒465-8515 愛知県名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地

<https://www.aichi-toho.ac.jp/information/access>

■アクセス

①地下鉄～徒歩の場合

地下鉄東山線「一社」駅下車

徒歩約13分(約1km)

地下鉄東山線「星ヶ丘」駅下車

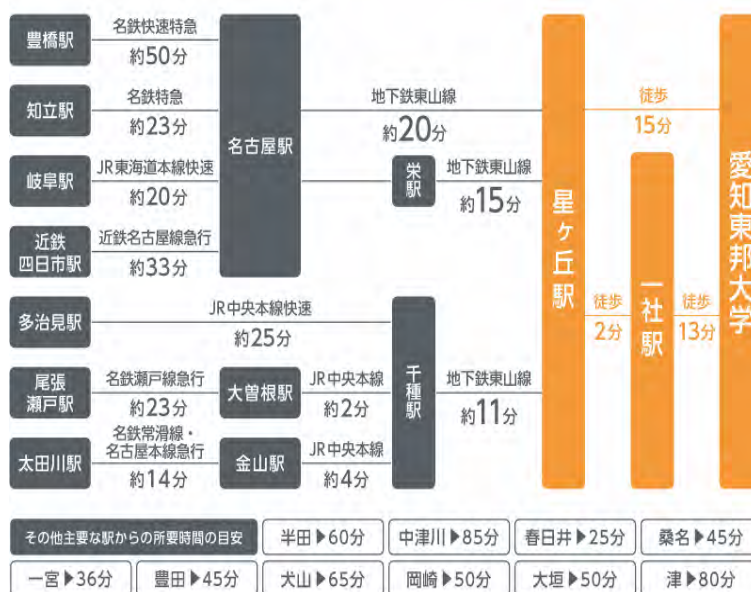
徒歩約15分(約1km)

②地下鉄～市バス～徒歩の場合

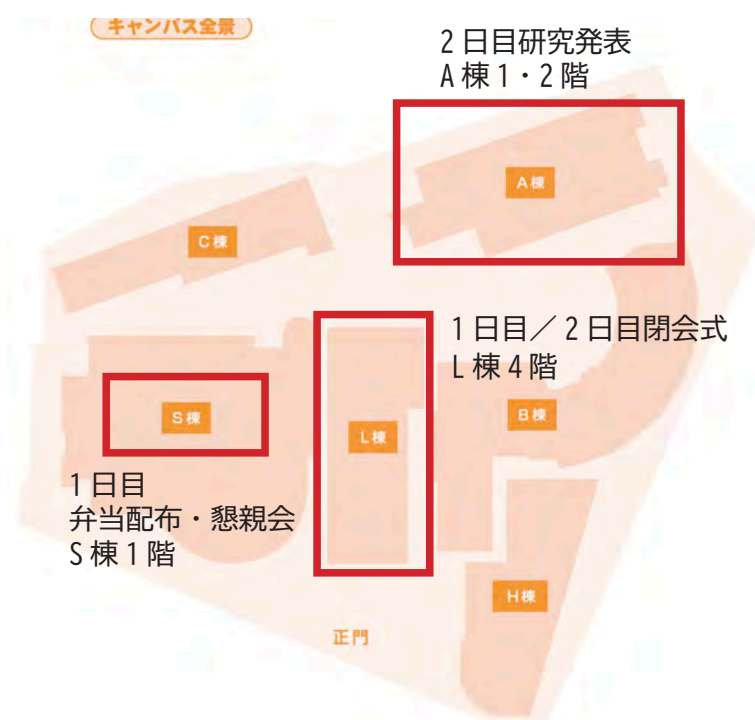
地下鉄東山線「一社」駅下車、

2番出口より市バス「引山行き」に乗車「平和が丘三丁目」下車

徒歩約3分



■キャンパスマップ



L棟(メイン会場)

大会プログラム（1日目）9月14日（土）

| | | |
|-------------|---|-------------|
| 10:30- | 会場受付開始 | L棟4階イベントホール |
| 11:00-12:00 | 開催校プレイベント Rethink 愛知東邦大学－共創の舞台づくり 報告者：松井 健斗（株式会社カナメヤ代表取締役） カナメヤ所属学生団体 学生チーム 司会：手嶋 慎介（愛知東邦大学）／カナメヤ所属学生団体 学生チーム | L棟4階イベントホール |
| 12:00-13:00 | 昼食休憩 *昼食を事前にお申し込みの方は、S棟1階にてお弁当をお渡しいたします。 | |
| 13:00-13:15 | 開会式 会長挨拶 吉本 圭一（滋慶医療科学大学大学院） 開催校挨拶 鷓飼 裕之（愛知東邦大学学長） 実行委員長挨拶 手嶋 慎介（愛知東邦大学） 司会：牛山 佳菜代（目白大学） | L棟4階イベントホール |
| 13:15-14:05 | 基調講演 テーマ：若者・社会を取り巻く職場環境と働く価値観の変化 講師：古屋 星斗（リクルートワークス研究所） 司会：牛山 佳菜代（目白大学） 講演者紹介：今永 典秀（名古屋産業大学） | L棟4階イベントホール |
| 14:05-14:20 | 休憩 | |
| 14:20-16:20 | シンポジウム テーマ：これからインターンシップには、何が求められるのか シンポジスト： 中村 憲和（一般社団法人わくわくスイッチ） 南田 修司（NPO 法人 G-net） 今永 典秀（名古屋産業大学） 古屋 星斗（リクルートワークス研究所） コメンテーター／モデレーター：松坂 暢浩（山形大学） 司会：牛山 佳菜代（目白大学） | L棟4階イベントホール |
| 16:20-16:30 | 休憩 | |
| 16:30-17:10 | 学会表彰委員会 高良記念研究助成報告 タイトル：企業・施設の受け入れ側からみる大学生インターンシップの成熟モデル －山口県インターンシップ推進協議会 登録企業調査より－ 発表者：角光 通子（宇部フロンティア大学） 2024年度 高良記念研究助成 授賞式 司会：眞鍋 和博（表彰委員会委員長／北九州市立大学） | L棟4階イベントホール |
| 17:10-17:55 | 会員総会 *対面とオンラインの併用によるハイブリッド開催を予定しております。 | L棟4階イベントホール |
| 18:10-20:00 | 懇親会 挨拶：松坂 暢浩（東日本支部支部長／山形大学） *懇親会終了後、最寄り駅までバス（無料）をご用意しております。ご利用ください。 | S棟1階学生コモンズ |

大会プログラム (2日目) 9月15日 (日)

| | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|
| 9:00- | 受付開始 | | | A棟1階 |
| 研究発表 9:30-12:00 | | | | |
| 会場 教室 | A会場 A101教室 | B会場 A102教室 | C会場 A205教室 | D会場 A207教室 |
| テーマ | 職業統合的学習と キャリア開発 | インターンシップの 学修成果 | 長期インターンシップと フィールドワーク | インターンシップ推進の 課題 |
| 司会 | 眞鍋 和博 (北九州市立大学) | 古田 克利 (立命館大学) | 二上 武生 (工学院大学) | 山本 美奈子 (山形大学) |
| 9:30-10:00 第1セッション | A-1 日系企業における国際インターンシップを通じた企業内人材育成ーキャリア形成と多文化理解の視点からー ○川端 千鶴 (北海道大学) | B-1 課題解決型インターンシップへの参加動機と能力形成ー単位認定と単位認定外の比較をとおしてー ○渡邊 和明 (鹿児島大学) | C-1 必修科目の長期インターンシップと事前の教育プログラムー名古屋産業大学 経営専門職学科の事例ー ○松林 康博 (名古屋産業大学) ○世古 雄紀 (名古屋産業大学) *2 | D-1 初年次インターンシップに臨む学生が事前に知っておきたいことービジネスマナーに着目してー ○松坂 暢浩 (山形大学) *3 |
| 10:00-10:10 | 移動・休憩 | | | |
| 10:10-10:40 第2セッション | A-2 愛知中小企業家同友会インターンシップの現状と課題 ○手嶋 慎介 (愛知東邦大学) ○見目 喜重 (豊橋創造大学) | B-2 選択必修科目における実践型インターンシップ経験による教育効果の検証 ○桑畑 夏生 (宮崎大学) | C-2 長期実践型インターンシップにおける学生専属メンターの内省支援ーNPO法人ブランディングポートによるB-CAMPの事例よりー ○安藤 奏 (特定非営利活動法人ブランディングポート) ○野島 朋子 (特定非営利活動法人ブランディングポート) | D-2 Z世代に対する新入社員研修の検証 ○原 一将 (札幌国際大学) |
| 10:40-10:50 | 移動・休憩 | | | |
| 10:50-11:20 第3セッション | A-3 NCSを基盤とする学習モジュールの展開ー韓国専門大学のビジネス分野を中心としてー ○江藤 智佐子 (久留米大学) ○樫 明美 (札幌国際大学) *1 | B-3 インターンシップを通じた短期大学生の社会人基礎力の育成 ○井崎 美鶴子 (目白大学短期大学部) | C-3 複数企業によるインターンシップ ○今永 典秀 (名古屋産業大学) | D-3 職務の接続性とインターンシップ・実習や就職の関連性に関する実証分析ー専門学校生及び大学生に対する調査結果よりー ○三保 紀裕 (京都先端科学大学) |
| 11:20-11:30 | 移動・休憩 | | | |
| 11:30-12:00 第4セッション | A-4 日韓卒業生調査からみた職業統合的学習 ○吉本 圭一 (滋慶医療科学大学) | B-4 デザイン思考のエッセンスを取り入れたインターンシップ合同振り返りワークショップの実践事例 ○宮崎 愛弓 (目白大学) | C-4 地域連携型アクティブラーニングによる汎用的能力の変化についてのー考察 ○上岡 史郎 (目白大学短期大学部) | D-4 ○肖 蘭 (北海道大学) ○亀野 淳 (北海道大学) |
| 【共同研究者】 | | | | |
| *1 吉本 圭一 (滋慶医療科学大学)・和田 佳子 (札幌大谷大学) | | | | |
| *2 今永 典秀 (名古屋産業大学) | | | | |
| *3 山本 美奈子 (山形大学)・藤原 宏司 (山形大学) | | | | |
| 12:10-12:40 | 閉会式 会長挨拶 第25回大会実行委員挨拶 次回開催校挨拶 記念写真撮影 | | | L棟4階イベントホール |
| | | | | 吉本 圭一 (滋慶医療科学大学大学院) 松坂 暢浩 (東日本支部長/山形大学) |
| 司会:牛山 佳菜代(目白大学) | | | | |

開催校イベント

Rethink 愛知東邦大学－共創の舞台づくり

2023年に東邦学園として100周年、大学としても25周年を迎えようとする愛知東邦大学。「2024年度大学事業計画・運営方針」、愛知東邦大学のテーマは“Rethink”である。

開催校企画「Rethink 愛知東邦大学－共創の舞台づくり」と題し、松井健斗氏を講師・ファシリテーターとして迎え、ALL 愛知東邦大学で、学生にもプレゼンテーションを行ってもらおう。

松井氏は、高校時代には名古屋市立の全高校に属する生徒会執行部による連盟を設立し東日本大震災への高校生による大規模な募金活動プロジェクト等を仕掛ける。愛知東邦大学在学中、大学内では学生会長及び大学祭実行委員長として“大学×学生×地域”の連携創出に従事。大学外では名古屋市の行政が運営する市内にてまちづくりに活動する全学生のプラットフォーム組織である NAGOYA 学生キャンパス「ナゴ校」にて総代表を務めた。また愛知県内の全大学の大学祭を一同に集結させた夢の祭典「名古屋学生万博」を創出し実行委員長として開催。旧名古屋テレビ塔周辺を会場として二日間で2万8000人を動員。「名古屋の学生の本気と想い」として全国メディアから注目を集めた。

こうした活動は、現在の「株式会社カナメヤ」につながる原体験でもあり、現在の在学・愛知県の学生のための「共創の舞台づくり」への想いが詰まっている。

日時：2024年9月14日（土）11時00分～12時00分（60分）

会場：愛知東邦大学 L棟4階イベントホール

報告者：松井 健斗（株式会社カナメヤ代表取締役）

カナメヤ所属学生団体 学生チーム

司会：手嶋 慎介（愛知東邦大学）／カナメヤ所属学生団体 学生チーム



【報告者プロフィール】

松井 健斗 株式会社カナメヤ

愛知東邦大学地域創造研究所 学外研究員

愛知県名古屋市生まれ。2017年愛知東邦大学を卒業後、株式会社マイナビへ入社し新人賞などを受賞。2021年に株式会社カナメヤ創業。また「ただ仕掛けるだけでなく、プレイヤーとしても体現したい」との想いから「尾張七代藩主 徳川宗春役」として各地域の観光名所やイベントにて出陣している。一般社団法人選挙割協会理事、一般社団法人名古屋若者評議会創設者、名古屋人間力大賞2022 - 歴代グランプリ賞 - 受賞、青年版国民栄誉賞2022 - 公益社団法人日本青年会議所 会頭特別賞受賞、NPO法人宗春ロマン隊「尾張七代藩主 徳川宗春」役

基調講演

若者・社会を取り巻く職場環境と働く価値観の変化

若者や社会を取り巻く環境は、近年特にめまぐるしく変化を遂げている。情報技術革新に伴う働き方の変化、働く価値観に対応し、企業や大学はどのように変化・進化を遂げるべきなのか。特に世代間ギャップの問題として「Z世代」と呼ばれる若者は、今何を求めているのか、何を課題として認識しているのか。インターンシップでは、若者と企業（社会）が協働することになる。このような中で、異なるアクターが Win-Win の関係、特に、一過性の取り組みではなく、持続発展する「共創」の関係性の構築に向けて何が必要なのかを考えたい。

基調講演では、リクルートワークス研究所の古屋氏より、現在の労働市場・若者のキャリアなどの視点から、昨今の職場や若者の考え、そして、今・これから求められるインターンシップについて話題を提供いただく。

日 時：2024年9月14日（土）13時15分～14時05分（50分）

会 場：愛知東邦大学 L棟4階イベントホール

講 師：古屋 星斗（リクルートワークス研究所主任研究員）

講師紹介：今永 典秀（名古屋産業大学）

司 会：牛山 佳菜代（目白大学）



【講演者プロフィール】

古屋 星斗 リクルートワークス研究所 主任研究員

一般社団法人スクール・トゥ・ワーク 代表理事

若者キャリア形成研究、若年労働市場研究を専門領域とするほか、高校就職者のキャリア支援など実践にも従事。

岐阜県出身。2011年一橋大学大学院 社会学研究科総合社会科学専攻修了。同年、経済産業省に入省。産業人材政策、投資ファンド創設、福島復興・避難者の生活支援、政府成長戦略策定に携わる。

2017年より現職。労働市場について分析するとともに、若年人材研究を専門とし、次世代社会のキャリア形成を研究する。一般社団法人スクール・トゥ・ワーク代表理事。主な著書：『なぜ「若手を育てる」ことは今、こんなに難しいのかーゆるい職場時代の人材育成の科学』,2023, 日本経済新聞出版、『ゆるい職場ー若者の不安の知られざる理由』,2022, 中央公論新社 など

シンポジウム

これからインターンシップには、何が求められるのか

インターンシップでは、様々なアクターが関与し、実施される。そして、その対象や形態は近年多様化している。それぞれのアクターの利害のみを押し付けたインターンシップは、単発で終了し、参加学生にとっても十分な効果が得られないケースも多々存在する。

今回のシンポジウムでは、「東海地域」を中心に、近年、多様なアクターと連携した新たな取り組みの実践者らの事例紹介と、その事例がどのように生まれたのかを議論する。多様なアクターが、単に一緒に実施するだけのコラボレーションではなく、双方が異なるインセンティブを有しながら、お互いにとってメリットを享受し、持続的な発展を遂げる「共創」が成立するための、連携のあり方や要素・諸条件、「共創」の実現に向けた障壁について議論したい。

日 時：2024年9月14日（土）14時20分～16時20分（120分）

会 場：愛知東邦大学 L棟4階イベントホール

シンポジスト：

南田 修司（NPO 法人 G-net 代表理事）

中村 憲和（一般社団法人わくわくスイッチ代表理事）

今永 典秀（名古屋産業大学）

古屋 星斗（リクルートワークス研究所主任研究員）

コメンテーター／モデレーター：松坂 暢浩（東日本支部長／山形大学）

司 会：牛山 佳菜代（目白大学）



【シンポジストプロフィール】

南田 修司

NPO 法人 G-net 代表理事

1984年、奈良生まれ。奈良学園高等学校、三重大学大学院教育学研究科修了。2009年に新卒でNPO法人G-netに加入し、副代表、共同代表を経て2017年より代表理事に就任。G-netの中核事業のひとつ「ホンキ系インターンシップ」は地方に特化したモデルとして、政府による複数の表彰や全国で採用される高校の教科書「政治経済」等、複数の書籍でも紹介されている。また、2018年には、兼業・複業に特化した社会人向けマッチングプラットフォーム「ふるさと兼業」を立ち上げた。ふるさと兼業は2021年HRアワード入賞。

現在は、オンラインキャンパス「つながるキャンパス」の運営や、地域・社会との共創をテーマとした新たな大学Co-Innovation University（仮称）の実践カリキュラムの設計など、多様な形で地域と人をつなぐ仕組みづくりを進めている。



【シンポジストプロフィール】

中村 憲和

一般社団法人わくわくスイッチ 代表理事

大阪府出身。大阪学院大学卒業後、飲食店の店舗運営や立ち上げに関わる。その後、NPO 法人 JAE、一般社団法人ワカツクなどで長期実践型インターンシップのコーディネーターとしてのキャリアを経て、2015 年に三重県で団体を設立。長期実践型インターンシップ、取材型インターンシップ、採用支援活動（就活アウトロー採用）などに取り組む。2018 年より、東海地域の学生が自分の夢や志を語る「東海学生 AWARD」を実施し、多くの若者の成長支援に大きく貢献している。

三重県と連携し、「地域の人事部」を目指し、「就域」勉強会・セミナーなどを実施。令和 5 年度は、RECRUITERS SALON として、採用・育成のトレンドを地域の中小企業が学び、企業同士の交流・顔の見える関係づくりを目指した勉強会を実施。人材育成 LAB. 採用広報 LAB. インターンシップ LAB. などの活動を展開中。地域一体となった「共創」の取り組みを目指している。



【シンポジストプロフィール】

今永 典秀

名古屋産業大学 現代ビジネス学部 経営専門職学科 准教授

Co-Innovation University (仮称) ボンディングシップ・アドバイザー

名古屋市出身。名古屋大学経済学部卒業後、大手信託銀行・トヨタグループに勤務。並行して学生のキャリア形成を支援する市民活動を実施。その後、岐阜大学地域協学センターを経て、現在は名古屋産業大学にて経営専門職学科の立ち上げと運営を実施。地域・様々な企業と連携した、実践かつ多様な教育プログラムを開発。主な書籍「長期実践型インターンシップ入門」（編著）ミネルヴァ書房、「企業のためのインターンシップ実施マニュアル」（共著）日本能率協会マネジメントセンター、「共創の強化書」（共著）中央経済社

古屋氏のプロフィールは、7 ページをご覧ください。



【コメンテーター／モデレータープロフィール】

松坂 暢浩

山形大学 学術研究院（学士課程基盤教育院）教授

山形大学 キャリアサポートセンター長

1979 年、宮城県仙台市生まれ。専門は、人材育成論、キャリア教育論。博士(学術)。民間企業 2 社（大京グループ、リクルート）を経て独立。2011 年より現職。全学対象のキャリア教育および就職支援の企画・運営を担当。また外部委員として、日本インターンシップ学会東日本支部支部長、内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部「地方創生インターンシップ検討会」委員、経済産業省「戦略的ツール活用型若者 人材移転支援事業」検討委員、山形県「若者女性県内就職・定着促進協議会」座長などを歴任。主な受賞歴として、文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰（文部科学大臣表彰）」最優秀賞受賞、日本インターンシップ学会「楨本記念賞（秀逸なるインターンシップ）」受賞など。

学会表彰委員会

■高良記念研究助成報告

企業・施設の受け入れ側からみる大学生インターンシップの成熟モデル
ー山口県インターンシップ推進協議会 登録企業調査よりー

発表者 角光 通子（宇部フロンティア大学）

■高良記念研究助成 授与式

日時：2024年9月14日（土）

会場：愛知東邦大学キャンパスL棟4階イベントホール

司会：眞鍋 和博（学会表彰委員会委員長／北九州市立大学）